

会議録

会議の名称	西東京市立学校給食運営審議会（第4回）
開催日時	平成28年11月28日（月）午後2時30分から午後3時42分
開催場所	保谷小学校1階 学習ルーム
出席者	（委員）有澤会長・中村副会長・松村委員・小林委員・田中委員・佐藤委員・横張委員・新出委員・中林委員・金木委員・後藤委員・山崎委員・小島委員・川添委員・石川委員 （欠席）横田委員 （事務局）手塚教育部長・等々力学校運営課長・近藤・石部
議題	1 諮問事項 2 答申までの審議予定について 3 中学校給食の調理方式について 4 その他
会議資料の名称	1 学校給食運営審議会の予定 2 中学校給食の調理方式(親子調理方式)が決まるまで 3 (仮称)第10中学校の給食室設置に対する意見
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>出席委員15名、委員数16名で過半数に達しているため、本審議会の成立を確認。</p> <p>議題1 諮問事項 ※ 教育部長諮問文朗読、答申に向けて審議依頼</p> <p>議題2 答申までの審議予定について ○会長 ただ今、教育委員会からの諮問を受けた。 今年の5月には、(仮称)第10中学校の給食室に関しての意見書を提出したが、その中でも、(仮称)第10中学は特殊事情を踏まえたものであり、今後の中学校給食のあり方については引き続きの議論が必要としている。その上で今回の諮問を受け、市立小中学校における給食の調理方式についての課題の検討を行うことになった。 残り任期は9ヶ月程度であり、詳細な1点を深く掘下げる議論は難しいため、主に課題になる点を審議してまとめていければよいと思う。 今後の予定は資料1を見てほしい。来年の1月と2月は予定日を記載したので、委員各位のスケジュールの確保をお願いしたい。これら都合3回で資料の確認や委員の意見を調整し、新年度には答申文の案文の調製をスタートさせ、6月末日には成文化できればと考えている。念のため、7月に予備日を設定しておけば、任期満了日までには調製可能かと思う。 今の段階では、8月の上旬には教育長に答申文を提出することを決めて、それに向けて活動を組み立てたいと思う。全員で諮問文をよく読んでみて、活発な意見があがるように努力してほしい。 事務局から日程に関する補足と、暫くぶりの開催のため、意見書を提出して以降の(仮称)第10中学校の進捗状況に関して報告してほしい。 ○学校運営課長 最初に前回の会議から本日までの経過について。意見書は5月16日に</p>	

教育長に提出され、その要旨は、市の方針に対して是とするものだ。具体的には、仮校舎として入校する中原小はもとより、新ひばり中に関しても校舎内に設置した給食室において、自校式の給食とすることが妥当とする意見で、この意見書の内容を受けた(仮称)第10中学校の基本設計に関しては、7月26日開催の教育委員会に報告している。現在は、基本設計図書の内容を受けた実施設計を鋭意策定中である。

次に、資料1の審議計画に対する事務局からの補足だが、提出可能な資料、或いは説明が必要な事項について申し上げたい。

1点目は、本日の資料2についてで、過去の審議会の経過をまとめて報告し、西東京市立中学校での給食の調理方式についてを、改めて確認できる資料と考えた。

2点目は、市立学校の建替え等の手法だが、長寿命化や大規模改修などの工法がある。市内の小中学校は27校中24校が建設後30年を超して、老朽化が進んでいる。校舎を更新する手法についての説明をしておくことが必要と考えた。これは、現在の親子方式を、どのように継続していくのかにも影響がある問題と考え、施設系の担当者から説明させたい。

3点目は、将来の給食室に求められる要件について。新設する給食室には必須の要件である「ドライシステム」とはどのような給食室で、なぜそれが必要なのか、等々を押えておく必要があると考えた。

更に、審議の過程で必要と思われる資料が出れば、適宜用意はしたい。

○会長 説明に対する質問はあるか。

(「特になし」)

○会長 (仮称)第10中学校であるが、中学のための校舎に一時的に小学校が入校するというは大変珍しいケースであり、それが要因で新ひばり中は自校式がスタートすることになった。このことは、改めて踏まえることは、大切な点だと思う。

また、ドライシステムという給食室の設置方法についても、答申文を策定するに当たっては知っておく必要があると思う。これまでの審議で理解していることは、ドライシステムを採用すると今までの給食室に比べると広い面積が必要になる、ということだが、このあたりの課題も学んでいきたい。

諮問文を再度見てほしい。大事な点は最後の2行に凝縮されていると思うが、「今後の小中学校における給食の調理方法」が課題になっている。(仮称)第10中学校の2つの意見書を策定する際にも、さまざまな意見が交わされたことを記憶しているが、さらに、新たな視点での議論をしていきたい。

今後の議論を行う上で、新たに予想されるような事態は何かあるのか。

○事務局 今回の審議の論点は校舎の更新が最大の要素になると考えているが、建替え等とは異なる要素として、市の人口動態の影響は、考えられると思う。親子給食は調理校の配食数の能力がその関係を大きく左右する仕組みだ。西東京市の人口は20万人を超す勢いだが、例えば特定の地域の人口が増え続け、そこに立地する調理校が自校の配食で手一杯になってしまうケースが発生した場合、中学への給食提供に支障が出ることも視野に入れて、一度親子関係を見直す必要があると思う。

これまでは余り考えてこなかった新しい問題だが、次回以降に具体的な例をあげて説明していきたい。

○会長 特定の地域の人口が増え続けることでの影響も課題の1つとして考えなければならぬという報告だが、親子給食は中学校に食事を運ぶことが成立要素になるので、例えば道路事情が変われば、運べなくなるということも考えなければならぬ。

校舎の建替えにもいろいろな手法があるようなので、そのあたりも作用するということだと思うが、計画的な審議に応じてほしい。

議題3 中学校給食の調理方式について

○会長 資料の説明を求める。

○事務局 資料2については、西東京市ではなぜ親子調理方式が採用したのかを、審議会の答申等から拾い上げてまとめたものだ。

中学校の給食に関する答申や記録については、親子方式のことだけでなく、完全給食に至る以前のものを含めると合併前からになってしまうため、今回は完全給食に至った部分のみを取り上げていることを理解してほしい。

給食審議会が、中学校も完全給食にすべき、と結論付けた答申は、平成19年7月のものだが、最初に審議会は、給食の提供方法として「自校方式」「センター方式」「親子方式」「弁当外注方式」に絞り込んで研究することを決めた。その上で、自校方式以外の3方式について、近隣市の視察を実施して検証を加えている。

まず、東久留米市の弁当併用外注方式に関しては、冷たいおかずが提供されることや汁物の提供できない点などを課題と記されている。

次に、調布市の親子方式は、前払いのために未払い防止になる点や献立に中学校の独自色を出せない点などをあげている。

最後の小平市のセンター方式は、小学校が自校式、中学校全校がセンター方式での提供とのことだが、食品工場のように、細やかな心を込めて作る調理作業のイメージは持てなかったという記載が残っている。

続いては、視察の結果等により、それぞれの方式を西東京市が採用した場合の諸課題を協議している。

まず、自校式だが、きめ細かな対応ができ、かつ安全・安心な実施方法である一方で、中学校に給食室の増築を行うことにより、校舎内の大幅なバリアフリー工場の必要性や人的配置などが生じ、財政的な負担が膨大であると書かれている。

次に、センター方式だが、費用面は大変効率的ではあるが、給食を作る工場として設置するための敷地が、西東京市には適地がなかったという結論だ。

次に、親子方式だが、小学校に新たな調理設備や、中学側の配膳室の整備も必要だが、新たな自校式の施設整備に比して安価で済む一方で、児童の増加傾向のある地域では、調理校として制約が生じることも書かれている。

最後に、弁当外注方式だが、最も費用負担が安価である。施設も人を雇う必要もないので当然のことと思うが、現実には、9校分の弁当を一括して提供できる業者の存在が不明との記載だ。

こうした検証結果のまとめとして、1点目は、中学においても完全給食を実施すべきである。2点目としては、その実施方法については、自校式が理想、と書かれている。ただし、2点目は、旧市の時代から検討されながら実現できていないこともあり、財政状況等を勘案しても、実現は困難なのだろうと書かれている。

その上で、最終的には「審議会では調布市を参考とした親子方式での実施を提案する」ということで結ばれている。この提案には但し書きがあり、西東京市で調布市のような給食ができるものかの検証をした上での意見ではないので、今後は、施設面、経費面、実施方法などさまざまな側面からの検証をすべき、とある。

給食審議会では、課題を拾い出すまでの審議内容であり、そうした答申意見を受けた「西東京市中学校給食検討委員会」が、平成20年度に設置された。職員の検討委員会であるが、改めて調布市を視察し、親子給食のメリット・デメリット等々を、主には財政的な可能性の側面から検証した上で、給食審議会の答申意見と同様の「親子調理方式が本市の中学校給食に適している」との結論を導いている。

その理由としては、小学校と同様に質の高い給食が実施できる点、中・長期的なコスト計算において、他の方式と比較すると優れている点を上げている。資料の4頁目の一覧表は、その当時に積算した比較表であり、あくまでもその当時の数値として参考までに確認してほしい。

この結論は、給食審議会や教育委員会にも報告され、最終的には市の決断によって、中学校完全給食に至っている。現在は、その6年目ということだ。

続いて、資料5頁の(仮称)第10中学の件だが、ひばり中の建替えが決定し、(仮称)第10中学として校舎の建設計画を立案している最中、新校舎の予定地に近接する中原小も建替えが決まったため、一時的に(仮称)第10中学の校舎を仮校舎として使う案が浮上した。そのことが要因になり、小学校が一時的にせよ使用するのであれば、その給食をどのように実施するのか、という視点から検討がスタートした。

同時に、給食審議会では、中学校完全給食が開始して3年目を検証するための審議が続いていたため、当時の教育部長から、追加の審議案件として、中原小とひばり中の給食の取り扱いについても、付帯意見の具申を希望する旨の要請を受けた。

結論としては、平成27年8月の付帯意見では、財政状況が深く関わる問題でもあるので、意見書の調製段階に出た意見を汲んで、市が適宜な判断をしてほしい、というものであった。

続いては、現在のメンバーが建議した平成28年5月の意見書のため詳細は省くが、中原小及びひばり中ともに、校舎内の給食室を設置しての自校式給食を開始すべきであるというもので、これは特殊事情と規定した。

資料の説明は以上だが、2つの意見書を受けた教育委員会の動向だが、(仮称)第10中学の給食室については、本日現在、実施設計の策定段階であるが、今年5月の意見書の決定のとおり中原小の仮設時及び開校後のひばりが丘中学の両校の校舎内には、給食室が設置されることになる。仮設で(仮称)第10中学に入校する中原小の建替えの計画だが、仮設入校している最中に現校舎は取壊し・新設されることになるが、この校舎の設計については、現時点では基本計画を策定している。(仮称)第10中学のときと同じく、保護者、関係者の加わる建替協議会において議論が進んでおり、小学校の建替えなので、給食室を備えた計画として説明を行っている。

資料の説明をとおして、改めて、西東京市の中学校給食は親子調理方式が今の考えであるということを説明した。

○会長 本日は、委員個々人の意見を述べるよりは、説明を受けた範囲の質問を受けたい。

最初に、本日教育委員会から受けた諮問文に関する疑問や意見はあるか。私たちが、今後審議しなければならない内容が示されているが、どうか。

(「特になし」)

次に、資料1のスケジュールに関してはどうか。

1月と2月は既に日にちを加えているが、場所は未定である。

(「特になし」)

次に、資料2についてはどうか。平成19年以降の流れについて、再確認した。

○委員 過去には青嵐中からは自校式にしてほしいという要望があり、スペースの確保もされているということだが、新しいひばり中で自校式が始まるということを受けて、青嵐中からの、新しい要望等は出ているのか。

○事務局 前回の審議会での委員からの質問を除けば、本日までに保護者を含めての市民要望や問い合わせ等はない。

○委員 了解した。

○委員 これまでの審議経過でも理想的には自校式ということがあり、新しいひばり中は自校式に決まった。今後の中学校でも、建替えがあればその可能性は高くなるのであろうが、全校の建替えは短期間で終わる問題ではないので、建替えなしでの自校式への可能性はあるのか。

○事務局 建物の更新のない中で、給食室だけの新設はできないと考えている。もしも、その方法が可能であったならば、親子給食方式は採用していなかったのではないかと思う。確かに、全校の建替え計画は長い期間のことであり、遠い未来のことは予測できないが、今は既存校舎への給食室の増築は考えていない。

○会長 西東京市の状況が変わらない中で、親子方式での給食の提供という方式につい

ては、変更はない。ひばり中は、特例で変更はした、という経過であったと思う。

○委員 了解した。

○委員 ひばり中が新校舎での自校式がスタートすると、その間にどこかの学校での建替えが発生し、ひばり中を親校にした中小や中中での親子方式は考えることはあるのか。

○事務局 中中親子方式は、過去に計算をしたことがあるが、中学生の給食は1食の提供量が小学校の高学年よりも多く、その2校分ということになると、ひばり中にはより大きな給食室の設置が必要になることや、委託先の調理員の人数も小中親子方式に比べると割高になるということなどもあり、親子方式としては効率が下がるために、ひばり中を親校にした中中親子方式は、計算のみになった案ではある。

○会長 ほかになければ、資料3についてだが、先だって出したばかりの意見書でもあり、質問はないと思うが、これに絡めて意見を述べる方はいないか。

(「特になし」)

最後に、全体をとおしての質問、或いは、次回以降の審議に説明が必要と思う項目があればあげてほしい。

ドライシステムの件では、何か補足はあるか。

○事務局 ドライシステムとはどういった給食室であるのかは、言葉での説明だけでなく、実際に見られると良いと思っている。ドライシステムの給食室とはどういった施設であるのか、それがなぜ必要なシステムであるのかは、資料を出して説明したい。

できれば、学識経験委員からの説明が良いと思っている。

○会長 この次の機会に時間を取るということなので、ぜひ学識経験委員からの説明を含めて、お願いします。

議題4 その他

○会長 他に意見等はないか。

(「なし」)

本日の会議は、散会とする。